

SSKW

Hataraku(work)

Kurasu(live)

Sasaeru(support)

That is to say

Kobushi Network

We are social workers!

グッとくるよ

# こぶしだより



## 特集

インタビュー企画  
こぶしの会職員に聞きました



生活介護の活動室の増築工事がおわり、  
セルフ・みらいに快適空間が誕生しました。

- ・一般就労への道
- ・ギャラリーこぶし
- ・たまみシュラン
- ・こぶしづかん
- ・社会モデルを地域文化に(連載)

NO.  
357



# こぶしの会職員に聞きました!!



現場で日々奮闘している職員に、二十四年度を振り返ってもらいました。そして、新年度への抱負をインタビューしてきました。ふだんは、面と向かって聞くことができないかも知れない、一人ひとりの想いを受け取っていただけたらと思います。

ほりうち かずゆき  
**堀内 和幸さん**

(こぶし作業所…支援員)

## 「料理と仲間」

こぶし作業所のお弁当は、仲間がつくったお弁当が売れるようにと考えていました。しかし、実際には、職員の手が加えられていることが多く、仲間が調理するというのが難しいです。ですので、まずは料理を好きになってもらって、向かい合ってもらいたいと思っています。



ある仲間は、料理が好きではありませんが、毎日お弁当づくりをしていくなかで、味見をしてもらいながら料理を作りつづけていくと、家に帰っても料理を作るようになったそうです。そして、仲間がつく

## Q. 支援をしている中で心掛けていることは?

「仲間の立場になる」ことです。自分の言いたいことを言っているだけでは、相手にはわかってもらえない。その人に合った言葉かけをすること、わかってもらえるんだなと感じています。

たかぎ かおり  
**高木 加織さん**

(第2けやき作業所…支援員)



## Q. 印象的な出来事はありましたか?

先程も話したように仲間の変化ですね。それに、仕事をすることで大切なことだと思っ、まずはあいさつからはじめていきましたが、いまではあいさつができた仲間ができるようになりました。まわりの仲間が言いはじめると、それにつられたように、いままでもあいさつができた仲間が「おはようございます」と、厨房に入ってくるようになるようになったんです。仲間からの発信が大切なんだなと思いました。

## 「ダルマとアツ 精神」

支援のことでつまづくようなことがあっても、ダルマさんのように早く起き上がれるように。それに、小さなことからコツコツと蓄えられるようにしていきたいです。積み重ねていかないと、どこかでそのぬけがでてしまうので。二年目を終えもちろん報告・連絡・相談はしますが、これまでの先輩方を見ていて自分で判断していることが増えたと思います。また、作業時間以外での利用者さんとの立ち位置が定まってきたように感じています。「居心地が良い」とはどんなことなのか。利用者さんとの時間を意図的につくるようにして大切にしています。

## Q. 印象的な出来事はありましたか?

利用者さんが禁煙していることです。本人だけでは止められないため、自治会の場で禁煙に協力してほしいとの話しをされたのです。

## Q. 支援をしている中で心掛けていることは?

利用者さんのことを尊重して、いつでも同じ立場や態度や口調で対応することです。

まさだ かよ  
**増田 加庸さん**

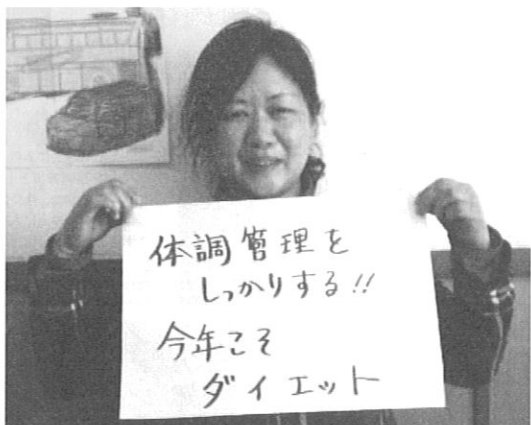
(セルフ・みらい…支援員)



## 「体調管理をしっかりする!」

今年こそダイエット

いまの職場に異動してきて一年たちましたが、他班の職員の方に声をかけていただいたり、提案や相談をすると、すぐに考えてくれて動きが見えるので、仕事がやりやすいです。だから、食べ物美味しく感じて、いままでも以上に食べすぎでしまったようです。



## Q. 一年間を振り返っていかがでしたか?

四月に異動になって一年間、毎日楽しく仕事をしています。みらいは常ににぎやかで楽しい雰囲気があります。仕事に行くことも楽しみで、何も課題がないわけではありませんが、家に帰っても疲れたと言ったことが減りました。

## Q. 支援をしている中で心掛けていることは?

小さなことでも知ろうと心掛けています。わからないときは、聞く。できないと思って決めつけないで、いろいろ試してみようと思っています。あとはケガのないようにしています。

にへい たつや  
**仁平 達也さん**

(チャレンジセンター…就労支援員)

## 「アグレッシブ」

グループホーム・ケアホームでは、仕事が円滑に進むように自分が担当していた仕事を職員間で分担しました。結果、任務が減り、新たな課題に向き合える時間ができました。しかし、その課題にアグレッシブでなかったと感じています。二十五年度からはチャレンジセンターという新しい職場で、就労支援を行います。居住生活支援からの異動なので右も左もわかりませんが、意欲も能力もある若い利用者が作業所がんばっても一万円に満たない工賃しかももらえない現状を見てきました。より多くの方の一般就労支援をがんばります。

## Q. 印象的な出来事はありましたか?

はじめは、利用者と職員の間にある線のようものが入っていて、なぜかよそよそしい感じを受けていました。でも、自分が悩んでいるときに、言葉がなく、全介助を必要とする利用者さんが文字盤をつかって自分の気持ちに同調してくれたことがありました。そのことと、あの時のほほえみで

気持ちが軽くなりました。

Q. 支援をしている中で心掛けていることは?

相手の自分よりも良いところを見るようにしています。それも先ほどの利用者さんの影響ですね。それに、自分より社会経験が長い方や子育て経験者もいます。学ぶことが多いです。



くどう ともひろ  
工藤 智広さん

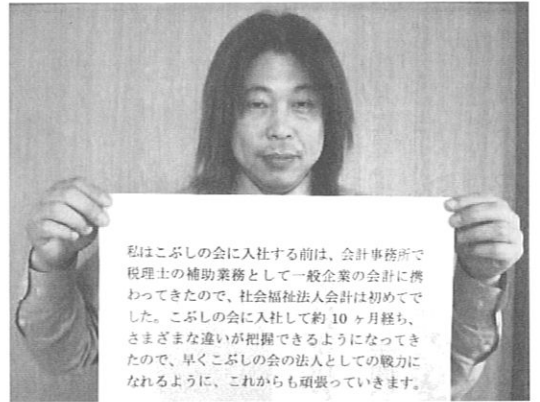
(法人本部…書記)

「戦力になれるようがんばります」

こぶしの会に入ってみて、自分が考えていたこととずいぶん違いました。社会福祉法人の会計処理を行うにあたって、一般企業と比べて会計処理の目的や方向性の違いに気づきました。それを頭に入れておかないと、こういうことをやらないとダメなんだと気づいたんです。また、会計や簿記の知識があってもダメで、福祉のことを理解

する必要があるんだと感じています。

Q. 印象的な出来事はありましたか?



いても、相手のことをわからないといけないのだなと感じました。

Q. 仕事をしている中で心掛けていることは?

任された仕事は期日までに終わるようにしたいです。そのために、事業所と確認し合っ、これなら絶対にできるといふ計画を立てることを心掛けたいです

わたなべ  
渡邊 さおりさん

(芳賀地区障害児者相談支援センター…相談支援員)

「心機一転がんばります!!」

こぶしの会に入社してから三年間、就業・生活支援センターで就労支援を行ってきました。何をすれば良いのか分からなかったことがだんだん分かってきて、就労支援の動きができてきたと感じるこの四年目の春に相談支援センターに異動することになりました。残念な気持ちもありますが、ほかのことにも興味を持ちはじめたので、気持ちを切り替えてがんばります。

Q. 三年間で印象に残ったことは?

一年目は変に構えてしまっていました。経験を重ねる中でたくさん体験をさせていただきました。そうした中で、就職したり、失敗したりを見てきて、就職は始まりであって、そのあとのほうが大変だと実感したことです。

Q. 支援をしている中で心掛けていることは?

できるだけ相手のペースに合わせてるようにしています。私自身がせつちかなので、話す言葉もゆっくりにする職種に就職できるように心掛けていました。これから相談支援業務に携わる上では、言葉の裏に隠されているニーズがあることを考えながら関わっていきたいとおもいます。

(取材…菊地・星宮)

## やる気、意欲、無限大!

今回の登場は、有限会社平成産業(真岡市鬼怒ヶ丘・代表取締役社長 佐藤浩様)に就職した、藤田友明さん。うず高く積まれた発泡スチロールを、休む間もなく懸命に片付けていました。先輩従業員とも仲良くやっている様子。実は、「けんかしている暇もない」くらい忙しいそうです…。

—現在、どんな作業をしていますか?  
「発泡スチロールのシール剥がしと清掃をやっています。」

—実際に働いてみての感想は?  
「初めは体力的にキツかったけど、今は楽しいです!今は月水金の出勤ですが、毎日でもやる気です!」

—給料は何に使いたいですか?  
「生活費!あと携帯がほしいです。」  
—最後に、いま就職を目指してがんばっている仲間、何かメッセージを!  
「がんばってください!」

—い、いやもう少し何か…(笑)  
「時間を守ることに!」



初めは作業に時間がかかったけど、今ではかなりスピードアップしている。社員の方から評価されていました。仕事への意欲も強く感じられ、貴重な戦力になっています。

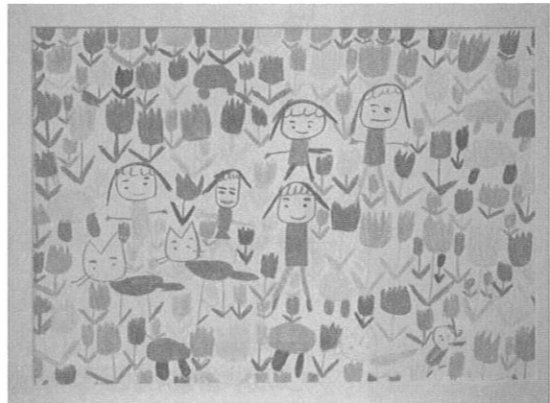
やる気みなぎる藤田さん。手早く作業が進みます。光ってるねえ〜。

取材・編集 松本 祐一  
協力・チャレンジセンター

## ギャラリー こぶし

## ずっと、忘れたくない思い出

今回は、こぶし作業所の星春佳さんの作品をご紹介します。作品名は「大好きな人」



まだ作業所の移転前に、仲間のみんなと絵を描いたり粘土で作品を作ったり楽しかった思い出を絵にしたそうです。中にはペットのネコなど、いろいろな思い出が詰まっています。楽しい思い出は、いつまでも忘れたいもの。そんな星さんの気持ちが伝わってくる、心温まる作品です。

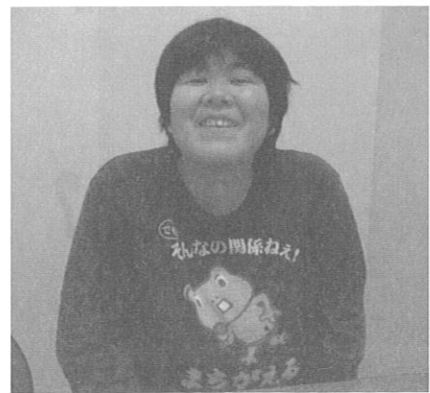
現在、作業所ではパン製造を行っています。立ち作業は大変だけど一生懸命がんばっていますと笑顔で話してくれました。パン屋さんで働きたいと夢を語ってくれた星さん。実現した時はぜひ、上のコーナーにも登場してもらいたいものです。

「絵をぜひ見に来て下さい」とメッセージをいただきました。

ここでは紹介しきれないほどたくさん作品が待っています。みなさん、こぶし作業所に足を運んでみてはいかがでしょうか。



次回はけやき作業所にお伺いします。  
取材・編集 松本 祐一





毎度おなじみのたまみシュランです。  
今回はNO. 355でまんまるぎょうざを紹介してくれて、けやき作業所に行ってきました。  
作業所に着いた瞬間からパンが焼ける香ばしいにおいがわたしの鼻をくすぐります。  
パンの香りって大好き！  
では、さっそくなかをのぞいてみましょう！

こぶしんぽ  
パンザイ!!



# たまみシュラン

けやき作業所

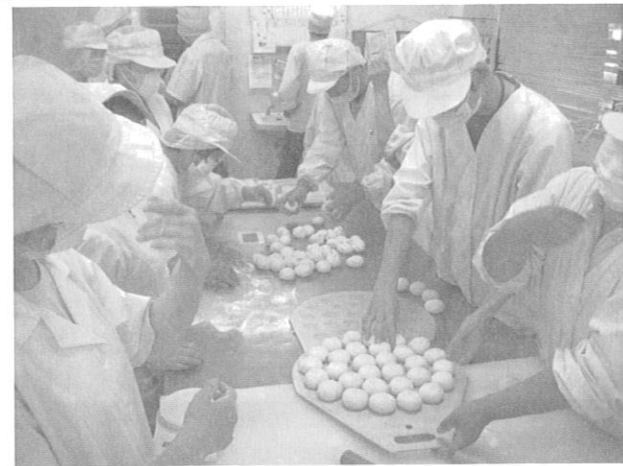
## にこにこパン屋さん



毎日焼き上がり時間をしっかり記入。  
記録を残して次につなげます



クロワッサン生地を作るための前処理をしています。



生地分割。「まるめ」は素早くていねいに！



を取材してきました～



残ったパンの集計をしています。大切な仕事のひとつです。



### にこにこパン屋さんってどんなところ？

- ・何人が働いているの？  
仲間23人、職員4人が働いています。7時、8時からの早番勤務している仲間もいます。けやきパン班で、長い仲間は10年以上働いています（実は職員よりも勤務年数が高いです・・・）。
- ・どこでパンが買えるの？  
おらがそば茶屋（芳賀町西水沼）、芳賀の道の駅やたいらや芳賀店でも販売しています。イベント（土曜日・日曜日）に参加をし、販売もしています。移動販売の曜日は月曜日～金曜日で曜日ごとに販売先が決まっています。また各月で益子芳星高校に販売にも行っています。
- ・人気のあるパンは？  
芳賀町ではなぜか・・・あげぱんが人気です。



けやき作業所  
にこにこパン屋さん

芳賀郡芳賀町祖母井2244  
TEL028-687-1040  
FAX028-677-5789

注文承ります。  
気軽に電話ください！

# こぶしづかん

こぶしの会に生息するゆかいな職員のおすすめの本を毎回紹介するよ。

取材：高野 満



「社員みんながやさしくなった」なんて魅力的ではありませんか！  
この著者は自ら IT 企業 (アイエスエフネットワーク) を立ち上げ、障がい者雇用で先進的な成果をあげています。どうして、そんなに障がい者を雇用するのか？理由は簡単です。「彼らが好きだから。」好きに理由などありません。これが、著者の会社の基本理念です。2008年、リーマンショックの大波が押し寄せた時も、「FDメンバー(会社内で障がいをもった仲間を、そう呼んでいるそうです)を切るなら、我々の給与をカットしてほしい」と、管理職が総決起し、そして生まれた一体感が難局を乗り切った原動力だったそうです。小林さんは力説します。

## 社員みんながやさしくなった

障がい者が入社してくれて変わったこと

3つの奇跡が起きた！

こばやし ゆうじ  
**小林 勇次** 県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」  
就業生活支援ワーカー

「現代の企業、というより、社会全体が障がい者に対して無知です。私たちの活動は、障がい者支援だけでなく、そういう社会に対しても働きかけていく必要があります。」じつは、小林さんは25歳の時にバイクで事故に遭い、以来、右脚に障害が残り、現在でも、日常、杖を必要としています。そういう障がい者としての気持ちと、支援者としての立場、両方を熟知したお話はとても説得力がありました。この本には、今回ご紹介できないエピソードが多数あります。ご一読を強くお勧めします。

## 社員みんながやさしくなった ~障がい者が入社してくれて変わったこと

●渡邊幸義/著 ●かんき出版 ●1,400円+税

「念願の仔猫をもらい受け、はじめて、自分の責任で飼いはじめたのが2008年でした。ちょうどその頃、この本が発売されたんです。」と、ほほ笑む早乙女さん。

さて、その内容は—

要するに、チョー猫好きな著者(仕事は、デザイン業)がいて、四六時中、ねこに囲まれた生活をしていて、泣いたり、笑ったり、怒ったり、果てまた、ねこに人生相談までもちかけ、すったもんだ・・・の、ぎょうぎょうな日々(サブタイトルにそうあります)を自身のブログにつづり、それをまとめたのが、この本(まんがエッセーと呼ぶそうです)で、あります。



そおとめ みき  
**早乙女 未来** けやき作業所 支援員

「共感できる部分がたくさんあるんです」と、今度は、ほほ笑み+につこり早乙女さん。いくつか、事例をあげてもらいましたが・・・記者には、???・・・さらに、「いやされるんです」と、ほほ笑み+につこり+ほっこり、たたみかけられました。

早乙女さんは、昨年4月に新卒でこぶしの会に入会しました。学生時代は福祉系の学部在籍し、特別支援学校などで様々なボランティア経験、実習を積んできました。けれども、いざ、職員として現場にはいると(現在は仲間と一緒に惣菜を作っています)、想像もしなかった悩み、苦勞、壁に突き当たります。そんなとき、気がつく、この本を手を取っているそうです。

「お疲れのときに、いかがですか？」と、最初のほほ笑みにもどって早乙女さん。でも、記者は、本よりも早乙女さんのほっこり笑顔にいやされた気がしました。

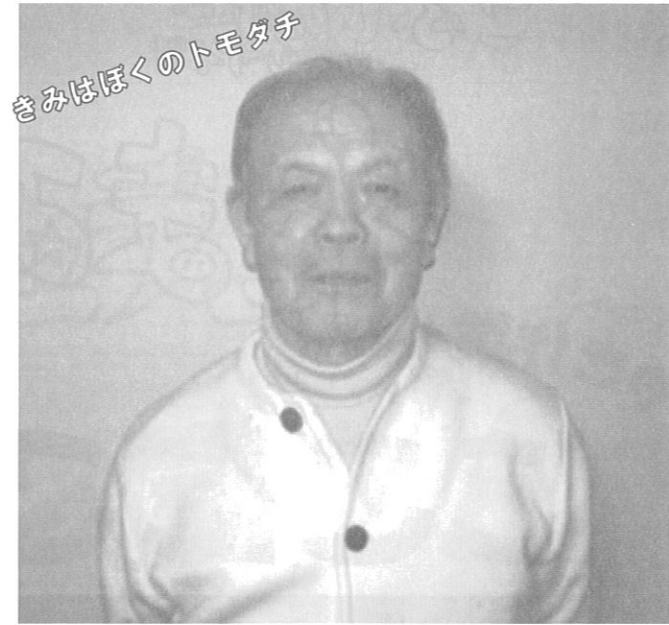
蛇足ですが、この本、意外(?)と、好評で、もうすぐ第10巻が出版されるそうです。



くるねこ ●くるねこ大和/著 ●(株)エンターブレイン ●1,000円+税

# こぶしの会の足腰を強める力 人があつて組織・組織があつて人!

こぶしの会 理事 柳 孝市 さん



きみはぼくのトモダチ

今回ご登場いただくのは、こぶしの会の柳孝市(やなぎこういち)理事です。長い間教職にあり、また作業所の施設長の経験をお持ちのこぶしの会にとつても心強い存在です。真岡市に作業所を作ろうと活動し始めた際、こぶしの会家族と相談に伺ったのがきっかけとなり、亀山の地を貸して下さり今の山紫水明の地として自然環境が豊かな「セルブ・みらい」が誕生したのです。

「人を動かすには組織が必要。利用者も組織を形作る一人であり、職員と利用者が一つの組織として動くことがより良い施設を作るには大切なこと。」  
「職員には経験をさせる。戸惑いを与えそれを施設長は喜びに変えなければならぬ。」  
「保護者の方との関係。対話・相互理解、話し合いをして本当の悩み・楽しみを知る必要がある。保護者の方の気持ちがわからなければ利用者の気持ちもわからない。」

今回柳理事にお話を伺い、今のこぶしの会にとつて必要であるのは組織に、そしてこぶしの会に関わる人、利用者・保護者・職員たちが互いに理解し合い、相互にパワーを出させることの大切さがわかりました。経験・知識の豊かな職員集団となり、重度の障がいの方をもしっかりとサポートできる組織にしていかななくてはと改めて感じさせて下さいました。

柳孝市理事 略歴  
昭和十三年生まれ。三十五年の教職歴。栃木特別支援学校校長退職後、福祉作業所施設長に就任。その後、セルブ・みらい誕生と同時にこぶしの会理事として現在に至る。

## 「こぶしの会の今後」

柳理事は、今後のこぶしの会について、ますます大きくなり八方に福祉の息が行き届いた時代のニーズにあった施設へ発展していくと語って下さいました。しかしその反面、それを支える「人」を育てるスピードが伴っていないことを心配なさっていました。人を育て・ベストの人員配置をしていくこと、言われたことだけをやれば良い仕事人集団にならないこと。自分で考え・学び・行動する。最も基本のことをしっかりと考えていかななくてはならないと実感しました。

取材：小野敦生



自然環境豊かなこの地は、利用者・職員を幸せにしてくれます



☆活動報告☆

# にぎわう売り場を助けてくれた

## 益子芳星高校の生徒さん

## with トリプルパン屋さん

### 大忙しの販売は一瞬の勝負

「けやき作業所(芳賀町)では、年間を通して隔月に栃木県立益子芳星高校さんでここにパン屋さんのパンやお惣菜、お菓子工房ビケの焼き菓子を販売させていただいています。生徒さんに人気なのは、月見パンやからあげ棒などで、若い学生さんにはエネルギーになる商品が好まれているのかもしれない。」

販売がはじまるお昼休みになると、わっと生徒のみなさんが押し寄せ、商品とお金が行き交う時間が約5分。混雑している最中に、少ない人数で販売しているけやき作業所の販売員の様子を見て、生徒会の顧問の先生、生徒さんのやさしい気持ちから、販売協力の提案をいただきました。そして、生徒会の生徒さんが販売のお手伝いをしてくださるようになりました。また、混雑解消のために販売テーブルの前にカラーコーンを置いていただき、列をつくって並んで買い求められるようにもしてくださいました。生徒会のみなさんが協力してくださるようになったことで、お客様ひとりひとりと丁寧に商品のやり取りができるようになりました。



生徒会の役員さんが販売を手伝ってくれています(右側)

### 生徒さんへのインタビュー

普段は障がいを持った方と接する機会がない生徒さんに、買い手と売り手の関係から、同じ立ち位置に立ってみたいの感想を伺いました。

Q.この取り組みをはじめたから、障がいを持った方への印象は変わりましたか?

A.はじめは、(呼び込みの声が)大きな声を出して



生徒会の二人と、生徒会長さん(後列左から)

いてかわいいと思いました。

・障がいを持っているからといって、はじめから「できない」と決めつけるのではなく、やってみてもらうということが大切なんだと思いました。

◆ ◆ ◆  
益子芳星高校のみなさんいつもお買い上げいただきましてありがとうございます。これからも美味しいパンやお惣菜をお持ちしますのびよろしくお願ひします。  
(取材・菊地)

## 社会モデルを地域文化に

文：高橋温美(こぶしの会常務理事)

### 第六回 「私の過ごした一九八〇年代」・後篇

#### 奮い立たせたのは障がい者を 取り巻く状況と、労働組合

当時の障がい者への白眼(差別意識)は相当のものであった。地域に出ることはかなりの緊張感があった。「気持ち悪いから側によるな」といふならお茶を引掛けたらいいこともあったが、学生時代、劣等生で鳴らしていた自分は打たれれば打たれるほど益々ファイトが沸いてくる性質で、少々軟弱すぎるくらいはあるが団塊世代のラストランナーなのだとつくづく思う。現実の矛盾に相対した自分は、むしろやるべき当面の目標を見出し、心の中は喜んでいてよかった。(当事者はそうした事件を積み重ね、段々無表情になっていくのだろう。そうした彼らの心情と相反する自身の感覚は、自身の幼児期、青年期を通じて授けられたのだと感謝しているし申し訳ないとも思っている)。障がい者への感情移入が強くなりつつあった福祉職員としての一九八〇年代は、職場環境、障がい者の社会的地位、経営や政治のあり方に対し批判的な気持ち醸成され、改善の具体的な行動を模索していく時代だった。実際には、仕事への関心の広がりとともに労働組合活動にプライベートな時間を割くという行動となっていく。青年期には、自分自身の存在価値を見失い、粗末な生き方をしてきた自分にとっては、障

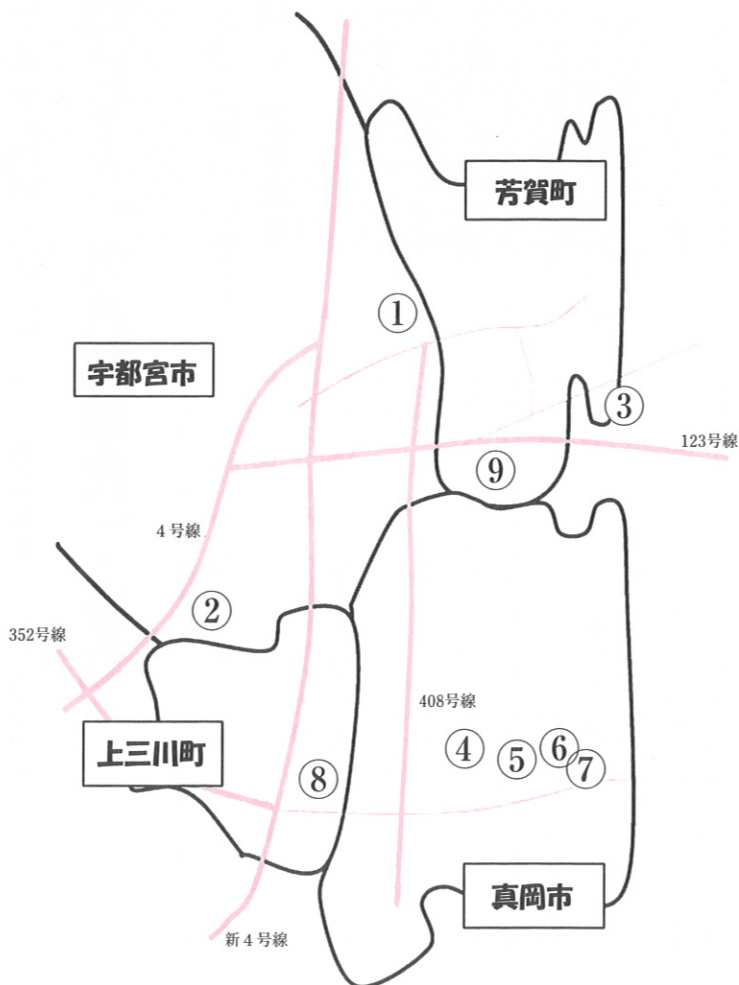
がい者福祉の仕事と同時に、労働組合は自分自身のやりがいの不可欠な構成要素の一つとなっていた。団塊世代の劣等生が、だいたい遅れて歩き始めたのである。労働組合の活動は、組合が、たまたま福祉全般の全国組織だったこともあり、様々な業種の仲間たちの考えや労働実態を知ることになった。広い部屋の中で数十名のベットのならべ寝ている利用者の状況を、真ん中にテーブルを置き、健康管理している有名な重症心身障害児施設の職員の仕事。これらの平均勤続年は半年という驚異的なものだも聞いた。また、自分も組合の会議で何度も訪問したのだが、児童養護施設では、高校や短大を卒業したばかりの保母さんが施設に住み込み、母親代わりとして働いている。通勤不可、結婚退職前提の職場であった。また、経営者の私生活の手伝いをさせられている前近代的高齢者施設のことや、挨拶がないという理由で解雇される等、なんとも切ない現実等々、等々。また、福祉関係の仲間だけでなく、工場や今のJR(民営化前は国鉄といった)や国家公務員の労働者とのつながりも広がり、自身の社会的・現実的視野が一気に見晴らし良くなることも、働く人たちが連携することのむずかしさや社会的な活動というものの困難さ、要求実現の難しさ、その中で困結することの困難さ、利用者や家族、経営者の連帯や地域住民とのつながりの大切さ、半公務員としての労働者としての労働組合活動

#### こぶしの会へ

こうした事情は、今連載の趣旨と外れるので、別の機会に譲るとして、もう一つの関心として生じたのが、前回の連載で若干触れた、障がい者の地位を高めていく活動である。私にとっての八〇年代のそれが、当時急速に広がっていた共同作業所づくりの運動への関心である。当時の私は、自閉症障がいの人たちのように、遠くからこぶしの会の活動を見ながら少しずつ情報を蓄積し、その魅力に近づいていった。そのことが、前連載のなかで発想された入所施設から地域へ飛び出していく様々なとりくみであり、地域の作業所づくりへの参加(国分寺町)であり、ついには憧れに満ちた八十九年のこぶしの会入職となってしまったのである。三〇〜四〇歳の青年期の自分は、多くの生活を共にしてきた障がい者と仲間たち、社会の人間的で積極的な発展に背中を押されて自分の人生に立ち戻ってきた感じであった。彼らの顔たちを思い出すと自然と笑ってしまう。ともに生きたことの嬉しさが込み上げてくる。



困ったを 良かったにかえる お手伝い  
**社会福祉法人こぶしの会 事業所一覧**



- ① 宇都宮市柳田町 1401  
こぶしの会法人本部  
 028-613-3707 (F) 028-666-6128  
 028-666-0418 (居住生活支援事業部)  
第2けやき作業所  
 028-680-5937 (F) 028-680-5938
- ② 宇都宮市茂原町 837-1  
こぶし作業所  
 028-653-1020 (F) 028-688-1121  
障がい者生活支援センターこぶし  
 028-613-5703
- ③ 芳賀郡芳賀町祖母井 2244  
けやき作業所  
 028-687-1040 (F) 028-677-5789  
地域活動支援センター「ほっと CHA」  
 090-7820-9165
- ④ 真岡市亀山 1043-23  
セルプ・みらい  
 0285-81-1155 (F) 0285-81-1177
- ⑤ 真岡市荒町 3-9-5  
県東ライフサポートセンター真岡  
 0285-83-2567 (F) 0285-85-8055  
お菓子工房 ピケ  
 0285-81-7091 (F) 0285-81-7092
- ⑥ 真岡市荒町 111-1  
県東圏域障害者就業・生活支援センター  
 「チャレンジセンター」  
 0285-85-8451 (F) 0285-85-8452
- ⑦ 真岡市荒町 110-1 市総合福祉保健センター内  
芳賀地区障害児者相談支援センター  
 0285-80-7765 (F) 0285-80-7765
- ⑧ 河内郡上三川町大字上三川 5082-15  
上三川ふれあいの家ひまわり  
 0285-38-6821 (F) 0285-38-6841  
上三川町障がい児・者生活相談支援センター  
 0285-38-6854  
アトリエ・ド・パン シュシュ  
 0285-56-7731 (F) 0285-56-7732
- ⑨ 芳賀郡芳賀町西水沼 438-2  
おらがそば茶屋  
 028-680-5091 (F) 028-680-5092

【企画】社会福祉法人こぶしの会  
 【編集】こぶしだより編集委員会

【責任者】藤田勝春  
 【住所】〒332-0902 宇都宮市柳田町一四〇一番地  
 【編集責任者】高橋温美

【発行所】〒157-0073

東京都世田谷区砧六―二六―二二  
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円

～編集後記～

◎…宇都宮にGAO (みなさま覚えてますか?) が来るというので、17年ぶりに彼女のライブに行ってきました。(実は、高校生の頃追っかけてしていた。) 髪の毛は真っ赤だったが、歌声もスタイルも当時のままで感動した。「サヨナラ」が大ヒットしたのは1992年。いろいろあった20年間……それでも音楽だけは続けてきたとのこと。そんな仕事ができたら幸せだろうな。(星宮)  
 ◎…昨年4月、編集員にくわえていただき……あっちでガサガサ、こっちでコンコン……ただただ、アツという間の一年でした。その間、イヤな顔をせず、快く取材にご協力いただいた皆様に、ひたすら感謝です。今度とも、こぶしだよりを宜しくお願致します。(高野)  
 ◎…「自分を支えて下さる方々に感謝」「生きている事に感謝」これ、ある人のお言葉。こういう気持ちを持つことって、素晴らしいなあ。感謝の

気持ちを忘れずに歩んでいこう!とこぶし3年目を迎えるにあたり心に決めた次第であります。(松本)  
 ◎…今年度を通して、施設の利用者さんに一年間で人間は劇的に変わることを学びました。出来なかったことが出来るようになる! 言えなかったことが言えるようになる! 日々の成長ぶりに感激する一年間でした。来年度は私自身も一緒になって成長していけたらなと思っています。(小野)  
 ◎…春の暖かさとともに、最近からだに異変を感じています。いままで寒かったからへっこんでいたのか、お腹まわりがまた芽を出してきているようです。新年度とともに気を引きしめていきたいと思います。(菊地)  
 ◎…先日、手打ちそばをうってもらい食べました。そばなのに、こし? があってとてもおいしくいただきました。やっとそばのおいしさがかわってきました。うどん派だったのですが、そばもハマリそうです。(篠崎)